

2018.10.08 原田作成

第34回水郷水都全国会議・霞ヶ浦大会 第4回実行委員会資料

日時：2018年10月8日(月)14:00-16:00(予定)

場所：奥井薬局図書室

出席予定者：荒井 一美、菊地 章雄、原田 泰、奥井 登美子、森 保文、額賀 勝男、
濱田 篤信、栗又 衛、石田幸彦

議事予定：

1. 前回議事録(2018.9.9第3回実行委員会)確認

(報告事項)

2. 前回以降の経過
3. 参加申し込み状況
4. 大会資料集目次

(検討事項)

5. 見学会
6. 交流会
7. 進行、役割分担
8. 大会宣言案
9. 当面のスケジュール

(その他)

資料：

1. 前回議事録(2018.09.09)第3回実行委員会 (別紙1)

2. 前回以降の経過

9月

- 9(日) **第3回実行委員会**
16(日) 開催要領郵送66(宛先不明など5), メール43(不達15)
25(火) 大会資料集編集開始
30(日) マスコミ郵送9

10月

- 1(月) 17WLCワークショップ備品申請(4,180円税別)
4(木) 見学会,助成決定(97,500円)
7(日) 大会資料集原稿完成、印刷発注(200部,46,130円)(10/12到着予定)
8(月) **第4回実行委員会**

13(土) **第34回水郷水都全国会議霞ヶ浦大会・見学会,交流会,全国実行委員会
全体会**

14(日)
16(火) **第17回世界湖沼会議・自主企画(ワークショップ)**

3. 参加申込状況(10月8日現在) 26名

オンライン 18名	米村輝子, 浅野敏久, 荒井一美, 菊地章雄, 森保文 原田 泰, 奥井登美子, 修東玉, 舟木憲徳, 前田恭伸, 梁錦秀, 白瀧敏弘, 山中真弓, 保母武彦, 竹下幹夫, 梶原健嗣, 植本眞司, 麓直仁
-----------	---

メール (XLSX) 2名	宮本一美, 磯ちず子
用紙 6名	柏村, 栗又, 後藤安子, 長野真理子, 西谷篤彦, 西谷洋子

		見学会	懇親会	全体会	
1	米村輝子	○	○	○	10,000
2	浅野敏久	○	○	○	10,000
3	荒井一美	○	○	○	10,000
4	菊地章雄	○	○	○	10,000
5	森保文	○	○	○	10,000
6	原田 泰	○	○	○	10,000
7	奥井登美子		○	○	7,000
8	修東玉	○	○	○	10,000
9	舟木憲徳			○	2,000
10	前田恭伸	○	○	○	10,000
11	梁錦秀	○	○	○	10,000
12	白瀧敏弘	○	○	○	10,000
13	山中真弓	○			3,000
14	保母武彦	○	○	○	10,000
15	竹下幹夫	○	○	○	10,000
16	梶原健嗣	○		○	5,000
17	植本眞司		○	○	7,000
18	麓直仁			○	2,000
19	宮本一美		○	○	7,000
20	磯ちず子	○	○	○	10,000
21	柏村忠志	○	○	○	10,000
22	栗又衛	○	○	○	10,000
23	後藤安子			○	2,000
24	長野真理子			○	2,000
25	西谷篤彦	○	○	○	10,000
26	西谷洋子	○	○	○	10,000
	合計	19	20	25	207,000
		57,000	100,000	50,000	207,000

4. 大会資料集

[1] 大会開催要領	1
(1) 大会プログラム	
(2) 開催趣旨	
(3) 実施要領	
[2] 各地からの報告	3
(1) 霞ヶ浦からの報告:第29回霞ヶ浦大会を越えて	浜田篤信
(2) 第32回越前おおの大会(2016年)その後	米村輝子
(3) 第33回朝倉・久留米大会(2018年)その後	田中秀子
(4) 防潮堤による中田島砂丘の消滅	前田恭伸
(5) 横浜縦断カヌーフェスティバル	宮本一美
(6) 7月豪雨(広島)の報告	浅野敏久
(7) 徳島より	田淵直樹
[3] 水郷水都全国会議34年の活動の成果と	
これからの方向性	21

<ul style="list-style-type: none"> (1) 水郷水都全国会議の34年 浅野敏久 (2) 水郷水都全国会議34年の成果と今後への課題 保母武彦 (3) 地域から見た課題 荒井一美 (4) 水郷水都全国会議の軌跡～山・川・海・人の絆 矢間秀次郎 (5) 水郷水都全国会議の組織と財政の問題 原田 泰
<p>[4] 水郷水都全国会議総会資料 38</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 活動報告 (2) 活動計画 (3) 第32回越前おおの大会開催報告 (4) 第33回水郷水都全国会議 in 朝倉・久留米大会報告 (5) 全国会議について <ul style="list-style-type: none"> (1) 水郷水都全国会議の紹介 (2) これまでの開催地とテーマ (3) 全国実行委員名簿 (4) 水郷水都全国会議会則
<p>[5] 参考資料 41</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 第17回世界湖沼会議ワークショップ(10月16日) (2) 霞ヶ浦大会実行委員名簿 (3) 全国会議の紹介

(検討事項)

5. 見学会

- ・コース
- ・参加予定者
- ・バス台数
- ・担当者配置
- ・配付資料

・助成金 97,500円 決定(10月4日)

平成30年度市民活動支援事業補助金 (茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

「茨城県森林湖沼環境税活用事業」と明記すること。

6. 交流会

- ・2018年10月13日(土) 18:00-20:00 ホテルマロウド筑波 参加費5,000円予定
- ・参加予定者
- ・全国実行委員会 20:00～ 会場費10,000円

7. 進行, 役割分担

10.13(土)

見学会

受付	道案内(土浦駅改札口) 全体管理 名簿確認, 資料配付	森 菊地
見学	ガイド ポイント説明	額賀, 栗又 (霞ヶ浦用水) 額賀(高須崎) 浜田(水生植物帯) 浜田(導水事業)
補助		

交流会

受付	名簿確認	() ()
交流会	司会	荒井

10.14 (日)

役割	担当者
駅案内	1名(森)
会場準備	指示(菊地) 5名() 受付用意, 会場タイトル看板取り付け, マイク, プロジェクタ用意
受付	指示(菊地) 3名() 名簿確認, 資料手渡し, 参加費徴収, 領収書作成・手渡し
全体司会	原田
各地からの報告	原田
全体討論	石田

8. 大会宣言について(別紙2)

9. 当面のスケジュール

10/13 見学会 13:00-17:30、懇親会 18:00-20:00 全国実行委員会 20:00-22:00

10/14 全体会 9:00-15:30

10/16 世界湖沼会議ワークショップ 18:00-20:00

第5回実行委員会(約1ヶ月後)

11月10(土), 11(日), 17(土), 18(日)

(別紙 1) 第 3 回実行委員会 議事録案

日時：2018 年 9 月 9 日(日)14:00-16:30

場所：奥井薬局図書室

出席者：荒井 一美、菊地 章雄、原田 泰、奥井 登美子、森 保文、額賀 勝男、
柏村 忠志、濱田 篤信、栗又 衛、宮本 一美

(1) 前回議事録の確認

第 2 回実行委員会議事録(2018. 08. 04)を確認した。

(報告事項)

(2) 前回以降の経過

前回第 2 回実行委員会から今回第 3 回実行委員会までの主な経過が報告された。

8 月	
4 (土)	第 2 回実行委員会 (議事録 資料 1)
12 (日)	参加申込書、印刷委託(プリントバック, 500 部, 940 円) (別紙)
13 (月)	オンライン申込開設 (申込メールの送信先, 原田, 荒井, 菊地)
16 (木)	開催要領, 印刷委託(プリントバック, 500 部, 6, 255 円) (別紙)
19 (日)	参加申込書, 開催要領受けとり
20 (月)	松江事務局へ 100 部送る
26 (日)	打ちあわせ (浅野, 荒井, 保母) (原田, 宮本, 奥井参加) (まとめ 資料 2)
9 月	
7 (金)	霞ヶ浦環境科学センター補助金助成申請
9 (日)	第 3 回実行委員会

(3) 参加申込状況 (9 月 9 日現在)

参加申込者は 7 名, うち入金は 3 名。

- ・オンライン参加申込：4 名 (米村 輝子, 浅野 敏久, 荒井 一美, 菊地 章雄)
- ・メール申込：1 名 (宮本一美)
- ・常陽銀行振り込み：2 名 (西谷篤彦)
- ・ゆうちょ銀行：1 名 (浅野敏久)

(検討事項)

(4) 見学会

菊地よりコース案の説明があり, 意見を踏まえて修正することになった。

12:45	土浦駅東口 (受付開始) (駅, 改札口に 1 名案内人を置く。)
13:00	出発
13:25	霞ヶ浦用水機場 (5 分)
13:55	かすみがうら市立歴史博物館 (館外の帆引き船のみ) (15 分) (歩崎) (通過) 櫻井鯉養魚場
14:20	高須崎の一本松 (10 分)
14:35	道の駅たまつくり (トイレ休憩/買い物) (30 分:時間調整を含む)
15:15	水生植物帯造成施設 (八木蒔、水天宮に駐車) (20 分, アクセス可能かバス会社に 問い合わせ中))
15:55	霞ヶ浦導水事業高浜機場 (15 分)
16:20	白菊酒造 (40 分) (酒蔵見学, 環境活動の解説など)
17:30	ホテルマロウド筑波到着 (このあと土浦駅)

次のような意見があった。

- ・土浦駅改札口前に案内人を置いた方がよい。

- ・霞ヶ浦用水機場は取水口の見学だけで説明は省いてもよい。
- ・博物館は割愛して歩崎展望台で霞ヶ浦を遠望するのがよい。
- ・道の駅たまつくりの30分は時間調整の意味がある。
- ・八木蒔はマイクロバスなら入れるのではないか。
- ・国土交通省、アサザ基金の施設も見学できないか。
- ・夕方は6号の交通渋滞の恐れがあるので逆コースの方がいい。

次のような分担を決めた。

- ・全体管理：菊地
 - ・バスガイド：額賀，栗又
 - ・ポイント説明：額賀（高須崎），水生植物帯（濱田），導水事業（濱田）
 - ・参加予定者：荒井，菊地，額賀，濱田，栗又，原田，森
- 資料は菊地が作成する。濱田，栗又が協力する。

・助成申請

9月7日に平成30年度市民活動支援事業補助金（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）の申請書を提出した。（申請金額97,500円）

(5) 懇親会

2018年10月13日(土) 18:00-20:00 ホテルマロウド筑波 参加費5,000円予定
荒井が担当する。

(6) 全国実行委員会

2018年10月13日(土) 20:00からホテルマロウド筑波で開催する。会場費10,000円は予算に未設定だったので計上する。実行委員会の開催時間について14日朝あるいは昼の意見があったが予定通り13日夜とした。しかし14日大会終了後共同代表中心に今後の対策を検討する必要があるとの意見があり、全国実行委員会に上げることにした。

(7) 進行，役割分担等

①見学会

分担は上記(4)に記述した。

②懇親会

- ・受付（名簿確認，当日参加者の参加費徴収）2名が必要。
- ・懇親会の司会は荒井が行う。プログラムは今後検討する。

③大会

役割	担当者
駅案内	1名()
会場準備	受付用意，会場タイトル看板取り付け，マイク，プロジェクタ用意 5名(指示:菊地)
受付	名簿確認，資料手渡し，参加費徴収，領収書作成・手渡し 3名(指示:菊地, ,)
全体司会	原田
各地からの報告	座長()
全体討論	座長(石井 予定)

- ・駅案内：改札口に1名。案内板は森が作成する。

- ・会場案内板：5階の案内板について菊地が確認する。
- ・会場内タイトル看板：奥井が作成する。取り付け方について菊地が確認する。
- ・アルバイト：1名確保(茨城大大学院生)
- ・プロジェクト(会場)，パソコン(濱田)。USBメモリの扱い。
- ・大会宣言：濱田，柏村が原案作成

(8) 大会資料の準備

- ・大会資料集 48ページ 200部
- ・見学会資料 8ページ 60部 (コピーでも可)

大会資料集作成スケジュールの予定は次の通り。

原稿依頼：9/9～

原稿締切：9/25

印刷原稿完成，出稿：10/1

冊子受けとり：10/7

(9) 後援依頼

後援依頼は荒井ができる範囲で行う。

茨城県，行方市、小美玉市、かすみがうら市、石岡市，土浦市，つくば市、阿見町、美浦村、霞ヶ浦漁業協同組合、玉造ロータリークラブなど

(10) マスコミ連絡

原田が早急に行う。

(その他)

(11) 世界湖沼会議大会宣言に対するコメント募集

「いばらき霞ヶ浦宣言 2018 (起草委員会たたき台)」に対するコメント募集が行われていることが紹介された。

(12) 当面のスケジュール

次回第4回実行委員会：10月8日(月) 14:00～ 奥井薬局

(以上)

(別紙 2) 大会宣言案

(1) 大会宣言案 2018.10.05

第34回水郷水都全国会議は、2018年10月13～14日、霞ヶ浦湖畔の土浦市で「水郷水都全国会議のこれから、語り合おう全国のカップたち」をテーマに開催された。水郷水都全国会議は世界湖沼環境会議(1984年、滋賀県琵琶湖)を契機に結成され、第1回大会(1985年松江大会)から34年にわたって持続可能性と中央集権的な水資源開発管理問題や内発型の水郷水都の創生の二大テーマについて、全国各地で議論と問題解決をめざす活動を続けてきた。なかでも2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震にともなう福島第一発電所による放射性汚染を踏まえ、第29回大会では「水郷水都の原点で有る市民・行政・科学者の連携による、環境と共生する水郷水都のモデルづくりとその実践をすすめ、全国各地において多くの住民との連携を広め3.11後の情勢を乗り越えること」を誓い、国に対し原子力発電からの撤退と一極集中型の大規模水資源開発管理の見直しを国にもとめてきた。しかし、解決の兆しが見えないばかりか、辺野古埋立や諫早湾締切問題、さらに全国各地における水害等、事態は一層深刻さを増した。こうした深刻な事態の解決について、過去33回の大会の成果を総括するとともに今回の全国各地からの報告と意見を総合的に検討した結果、水郷水都のこれからとして以下の方針が採択された。

1

2

3

今後、本方針にしたがい、全国の水郷水都の生態系、文化および産業を保全・再生し、新しい時代に相応しい自治の確立をめざすことを宣言する。

第34回水郷水都全国会議霞ヶ浦大会参加者一同
2018年10月14日

特別決議 1

辺野古埋立、諫早湾締切および霞ヶ浦導水事業の中止を求める決議案

全国総合開発計画によって開始された高度成長期の全国各地における巨大開発は水郷各地で甚大な生態系破壊を引き起こし、社会的損失を招いてきた。霞ヶ浦では、霞ヶ浦開発によって汽水湖の生態系が消滅し、さらに有害無益な霞ヶ浦導水事業によって涸沼や那珂川の生態系を危機に追いやりようとしている。水郷水都の生態系は、先祖代々継承してきた地域の共有財産であるが、それらが国家によって収奪破壊されてきた。

2011年3月には、福島第一原子力発電所爆発による放射能汚染は広大な範囲の生態系を死に追いやり再生への道は見えない。こうした深刻な生態系破壊が続く中で、さらに沖縄県辺野古地先の埋立が強行されようとしている。また、諫早湾埋立も生態系を構成する最重要な空間であるエコートン(推移帯)を中心とする浅海域の生態系を破壊する行為である。生態系は人間を初めとする生物の生命の基盤であり、その破壊行為は生存を脅かす行為であり日本国憲法第13条に違反する行為である。さらに生物多様性保全是国際条約「生物多様性条約」や「生物多様性基本法」でも国等の責務にも反する行為であり、国が「霞ヶ浦導水事業の中止」、「辺野古埋立事業の中止」および「諫早湾土地改良事業に係る水門開放」を実行することを要求する。

特別決議 2

原子力発電からの撤退を求める決議案

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震にともなう福島第一原子力発電所の爆発は、広範囲におよぶはかりしれない放射能汚染を引き起こした。2013年10月に霞ヶ浦湖畔で開催された第29回水郷水都全国会議において、私たちは「まず原子力発電をやめること、そして地域協働型の再生可能エネルギーの開発と普及を地域自立によって進める」ことを誓った。しかしながら、放射能に汚染された地域は見捨てられ再生の道は見えてこない。福島第一発電所の事故は、一度事故が起これば、地域の生態系が死に追いやられることを証明した。私たちは、まず原子力発電をやめることを求める。また原子力産業にかわって、地域の豊かな生態系サービスと共生する新しい持続可能な産業の推進を国に求める。